

# 築地体三号細仮名

毛筆書道の流れをうけつぐ流麗な仮名

小宮山博史

ここで使っている「細仮名」という正式名称はありません。もちろん「太仮名」という名称もなく、この分類は私達の「印刷史研究会」<sup>☆註四二</sup>が仮に使っているものです。この三号太仮名は、東京築地活版製造所が明治四五（一九一二）年二月に発行した『改正三号明朝活字書体見本 全』<sup>★図三一</sup>に収録されている見本から覆刻してあります。この仮名がいつできたかはわかりませんが、上海から導入した三号活字は分合活字（<sup>連載第一回を  
ご覧ください</sup>）ですので、その使い勝手の悪さからかなり早い時期に改刻がすすめられていました。また改刻と同時に中国には無く日本では必要不可欠な仮名書体も開発がすすめられていたはずで、手元には明治一〇年代の三号活字を使った印

刷物がありませんので、この細仮名がいつから使われはじめたかはわかりませんが、かなり早い時期に開発されたと思われる。

明治二四（一八九一）年二月刊『印刷雑誌』第一巻第一号の末尾に築地活版の広告が差し込まれています。その広告本文は三号漢字仮名交り文でここに使われている平仮名は今回覆刻した細仮名と同じ字形です。★図三二上この細仮名が漢字にたいするメインの書体です。もちろん明治三六六年刊の『活版見本』でも漢字仮名交り組み見本に使われていますが、興味深いのは三号楷書仮名交り書体見本の両仮名はこの細仮名なのです。冷静に考えれば、現在通用している明朝体仮名の姿形は正確には楷書体のスタイルを維持しているといって良い。しかしこの三号細仮名ほど楷書体漢字に合う字形は現在まで作られたことはありません。

これははつきりとした理由はなくあくまで想像なのですが、この三号細仮名を彫刻したのは築地活版の名人彫り師といわれた竹口芳五郎たけぐちよしごろうではないでしょうか。『印刷雑誌』第一巻第六号（七月号）の一九頁に築地活版の美しい楷書体漢字と連綿体仮名の見本が載っていますが、そこには「活字種版師竹口芳五郎」と明記されています。★図三二活字種字の彫り師の名前が明記されることは前代未聞の出来事ですが、明記されるに足りる特に優れた技術の持ち主として公知のことであったのかもしれない。『本邦活版開拓者の苦心』（津田伊三郎編。津田三省堂、昭和九年）には竹口芳五郎の簡単な伝記が収録されていますが、それによれば築地活版に明治五年入社し、明治四一年八月急逝するまで築地書体の開発、改良に従事したといっています。その実働期間は築地活版の黎明期から爛熟期に相当します。築地活版の種字彫り師は竹口芳

☆註四二……印刷史研究会 平成七年、小宮山博史、府川充男、日下潤一、故木田元、前田成明の五名で発足した活字印刷研究会。通説にとられず、印刷物を第一資料として日本の近代活字史を明らかにすること、日本・中国・韓国の活字研究者と提携しアジアの近代活字史を構築することを目標として、研究成果を『印刷史研究』（学術刊行物指定）に発表。

『印刷史研究』誌は第八号まで刊行（第七号までは在庫なし。第八号は残部少々）。停滞の後今年春第九号を刊行予定。第九号の執筆者は中国の活字研究家潘吉星氏の「中国金属活字技術の起源」と在日朝鮮人学者任展慧氏の「日本における李樹廷の活動と『明治字典』」の二人。「印刷史研究」は予約出版のため、予約については佐藤タイポグラフィ研究所（〒221-0051 横浜市神奈川区幸ヶ谷16-6）までお問合わせください。

五郎から竹口正太郎へ、そして安藤末松と続いて会社そのものが終息します。種字彫り師のお話しは回を改めて書く予定ですのでご期待ください。

この三号細仮名は、文字の大小と字形は書き手に左右される毛筆書きが一般生活の基本であった時代でありながら、人々が読む新聞、書籍は正方形の中にほぼ均等大きさを追求しはじめた活字書体であり、そのギャップの中で揺れ動く人々にも十分に理解が得られる書体であったように思えてなりません。流麗ともいえる運筆、人々が受け入れやすい文字固有の大きさと字形、それを活字書体という制約の中で生かしていくのは困難な作業であったと思われませんが、じつに美しくまとめられています。このような造形は現在のタイプデザイナーには作れないものです。

三号細仮名の字形は、一号にも見られませんが、四号、五号という小さいサイズにはありません。このことははじめから人々の目につく見出し用書体を念頭において制作されたもので、目的によって制作方針を差別化していることがわかります。

漢字と仮名を同じウエイトに見えるように現在の書体は作られています。が、べつにそれにこだわることなく漢字は太く仮名は細くしても新鮮な文字組みが表現できるのではないのでしょうか。字間行間の設定でも印象は大きく変わります。この書体がどのように使われるかとても楽しみです。

◎組版仕様

書体=ヒラギノ明朝 Std W5 (漢字・欧文・アラビア数字) + 築地体三号細仮名 (仮名, 「日本の活字書体名作精選」より)

見出し=サイズ: 60 級/本文 (p.122)=サイズ: 24 級, 字送り: 30 齒, 行送り: 36 齒

本文 (p.123 ~ p.124)=サイズ: 16 級, 字送り: 20 齒, 行送り: 30 齒, 1 行: 33 字詰め・22 行

◎発行=大日本スクリーン製造株式会社 ◎デザイナー=組版=向井裕一 (gymh)

(2005.03.18)

★築地体三号細仮名(二四級)

あめつちほしそらや  
まかほみねたにくも  
きりむろこけひこい  
ぬうへすゑゆわさる  
おふせよえのをなれ  
アメツチホシソラヤ  
マカハミネタニクモ  
キリムロコケヒトイ  
ヌウヘスエユワサル  
オフセヨエノチナレ

○平假名及び附屬物

いろはにほへこちりぬるをわかかよたれそつね  
 ならむうぬゐのたぐやまけふこねてあさきゆめ  
 みししゑひひもせすんががぎぐげござじじずぜ  
 ぞだぢづでどばびびぶべぼばびぶべぼとどや  
 ひノカヽヽヽヽヽヽヽヽヽヽヽヽヽヽヽヽ

○太平假名

いろはハエにまほ不へことちりぬるをわかよた  
 れまそりつねならむうるのたおくやまけふこね  
 えてあゑさきゆめみししゑひひもせすんが  
 ぎぐげござじじぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 むびぶべぼ不ばむびぶべぼ不とどヽヽヽヽヽヽヽ

★図三一―…東京築地活版製造所「改正三号明朝活字書体見本 全一（明治四五年二月刊）」の両仮名見本の見開き頁。四種類の仮名が掲載されている。その他に二分の一平型漢字、二分の一の縦型漢字、ゴザック形漢字両仮名、フワソテ形漢字両仮名、約物。明朝体漢字は五、八、八四字を収録。

くぐ

○萬葉假名

以以海海ハモ不庵とと至思依を日りあをさふ  
達社ろ登川次祢ふと屋宇此能乃おをく屋満々夢  
おえろて阿さ紀麦也免こし志比能務まおが美と  
をが夢おごおを浪務ろ登さふ竹でどどバむ比能  
庵不バむ比や庵不つ竹庵

○片假名及び附屬物

イロハニホヘトチリヌルヲワカヨタレソツ子ネ  
ナラムウ井井ノオクヤマケフコエテアサキユメ  
ミシエヒモセスンノ片片ノガギグゲゴザジズゼ  
ゾダヂヅデドバビブベボヴバビプペポ、バビ

株式会社東京築地活版製造所

五十五

いろはにほへそちりぬるをわかかふたれそつね  
ならむうゑのおくやまけふこえてあさきゆめ  
みししゑひひもせすんががぎぐげござじじずぜ  
ぞだちづでどばびぶべぼばびふべぼ

ゝ 々 々 々 ぐ ぐ

イロハニホヘトチリヌルヲワカヨタレソツネ  
ナラムウヰノオクヤマケフコエテアサキユメ  
ミシエヒモセスンガギグゲゴザジズゼ  
ゾダチヅデドバビブベボヴパピプペポ、バ、ヅ、

いろはにほへそちりぬるをわかよた  
れそつねならむゑのおくやまけふこ  
えてあさきゆめみしゑひもせすんが  
ぎぐげござじずぜぞだちづでどば  
びぶべぼばびふべぼゝ 々 々 々 ー

★日本の活字書体名作精選「築地体三号細仮名」の書体見本（二四級）

★日本の活字書体名作精選「築地体三号太仮名」の書体見本（二四級）



諸君よ東京築地活版製造所ハ多年の勉強漸く其結果を現し  
 今や殆ど東洋第一の活字製造所を以て知らまき上海  
 香港眞菲新嘉坡等の遠方より漢字及び洋字  
 の注文を受るのみならず東  
 洋ニ在る幾多の横字新聞紙  
 も從來用ひ來まき歐米製の  
 活字ニ代え當所の活字ハ地金堅  
 牢にして永久の使用ニ堪え殊ニ  
 字體正確にして且つ如何なる注文にも  
 應じ得る爲で有ります諸君よ此上とも  
 益々東洋第一の名を全ふせしめよ



東京市京橋區築地二丁目十七番地

**東京築地活版製造所**

有限責任



(行印所造製版活地築京東)

★圖三二二……「印刷雜誌」第一卷第一号（印刷雜誌社、明治三十四年二月二十八日刊）に掲載の築地活版廣告。  
 本文が三号、社名は初号、住所は二号、片分銅にHのマーク下の「有限責任」は五号、飾り罫下の社名は六号。

★図三……『印刷雑誌』第一巻第六号に掲載の築地活版の種字彫り師竹口芳五郎の名前が入った広告連綿仮名が珍しい。活字で連綿仮名を最初に作ったのはウイーン王立印刷所で、一八四七年柳亭種彦の『浮世形六枚屏風』を活字での翻刻に使ったものである。江戸版本を見事に再現したこの活字は一八七三年と七四年にアドルフホルツハウゼン印刷所で三冊の聖書を組むことになる。このウイーンの連綿体活字の影響が築地活版の連綿体仮名に表れている。ウイーンで作られた連綿体活字は本国ではすでに隠滅しているが、戦前日本人学者が入手した約四〇本のうち九本が戦災と敗戦の混乱をくぐりぬけ健在。

印刷雑誌



活字種版師 竹口芳五郎  
印刷技手 坂本虎馬

日本東京市京橋區築地貳丁目拾七番地東京築地活版製造所 印行

十九